

# カレイ類の産卵特性の解明

八戸支所

協力機関：青森県・岩手県研究機関

## 研究の背景・目的

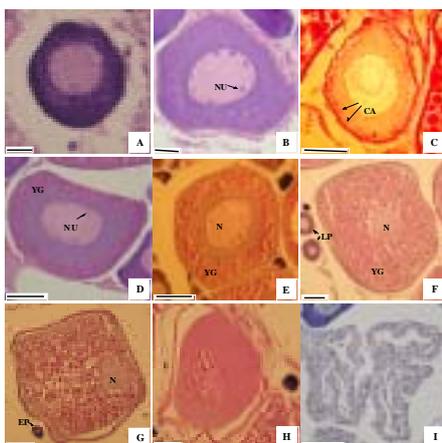
多獲性カレイ類の資源変動要因を明らかにするために成熟様式、産卵数を把握する。

## 研究成果

1. ミギガレイでは、2歳でほぼすべての個体が成熟し、寿命の10歳まで毎年産卵していた。
2. 繁殖期直前に産む卵の数が決まり、産卵は複数回に分けて行われていた。
3. 体が大きいほどたくさん産卵するが、同じ体長の場合、7歳魚以上になると産卵数が少なくなる傾向があった。

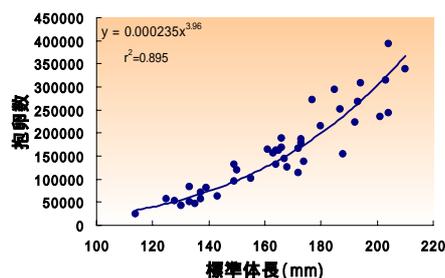
## 波及効果

1. 成熟年齢を同定したことにより、親魚量の推定が可能になる。
2. 簡便に個体あたりの産卵数を推定することが可能になる。
3. 老化による産卵数の減少を示したことにより、産卵量推定における親魚の年齢組成の重要性を示すことができる。

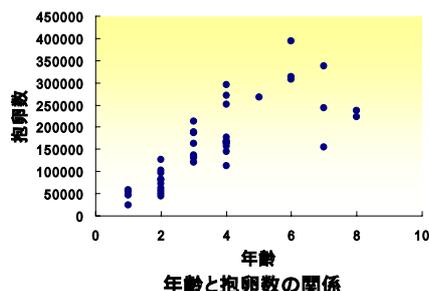


ミギガレイの卵母細胞の発達区分

A: 周辺仁前期 B: 周辺仁後期 C: 表層胞期  
D: 第一次卵黄球期 E: 第二次卵黄球期 F: 第三次卵黄球期  
G: 核移動期 H: 前成熟期 I: 排卵後濾胞



体長と抱卵数の関係



年齢と抱卵数の関係